

資料4-4
令和4年度第1回
事業評価委員会

東京都市計画道路 放射第25号線 (新宿区北町～津久戸町)

令和4年7月4日(月)

建設局 道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	5
3. 事業の投資効果	6
4. 事業の進捗状況と見込み等	10
5. コスト縮減等	12
6. 対応方針(原案)	13

1. 事業概要(1)

[全体概要]

路線名：放射第25号線

区間：新宿区新宿～文京区本郷

延長：約4.7km

[今回評価区間]

区間：新宿区北町～新宿区津久戸町

延長：0.83km

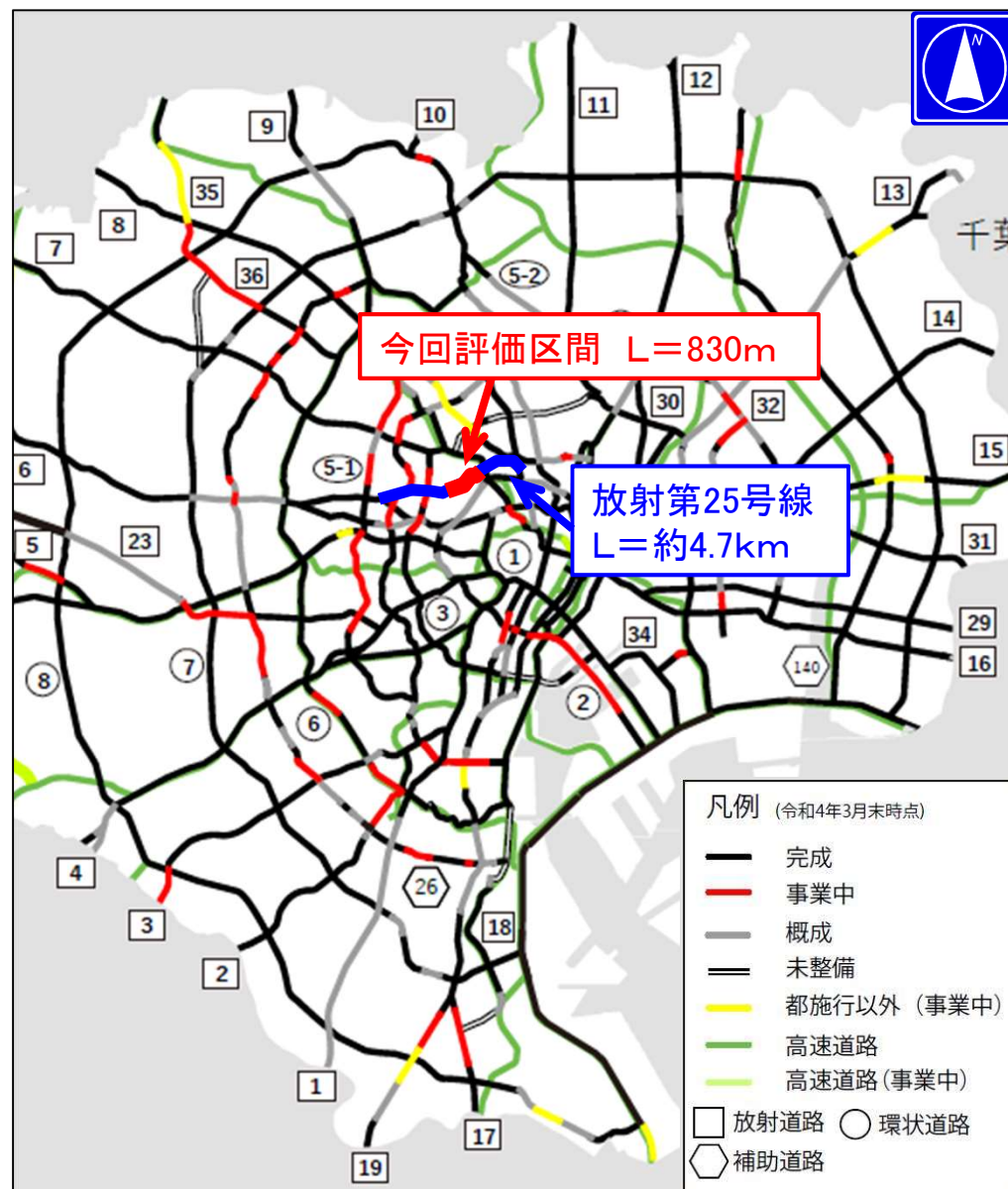
幅員：30m(4車線)

事業費：約131億円

年度	計画等
昭和21年 3月26日	都市計画決定
昭和25年 3月 2日	都市計画変更※1
昭和39年 2月 7日	都市計画変更※2
平成25年11月25日	事業認可取得
令和 8年 3月31日	事業認可期間

※1 幅員の変更 40m → 30m

※2 交差する都市計画線の箇所変更に伴う、隅切箇所の変更。



1. 事業概要(2)



同一路線の沿道状況



起点から外苑東通りを望む

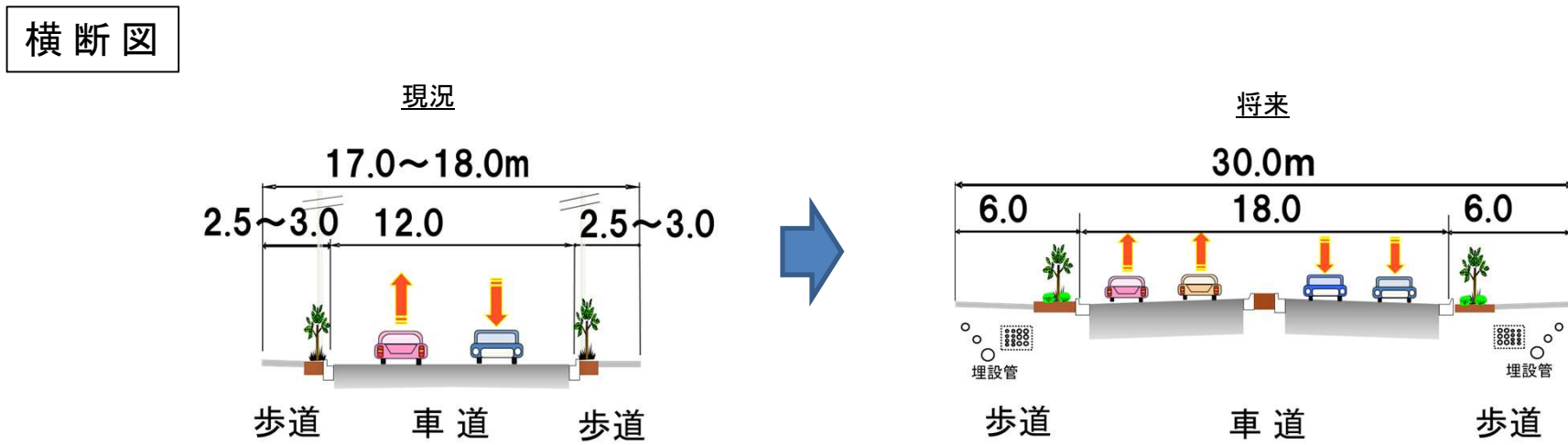
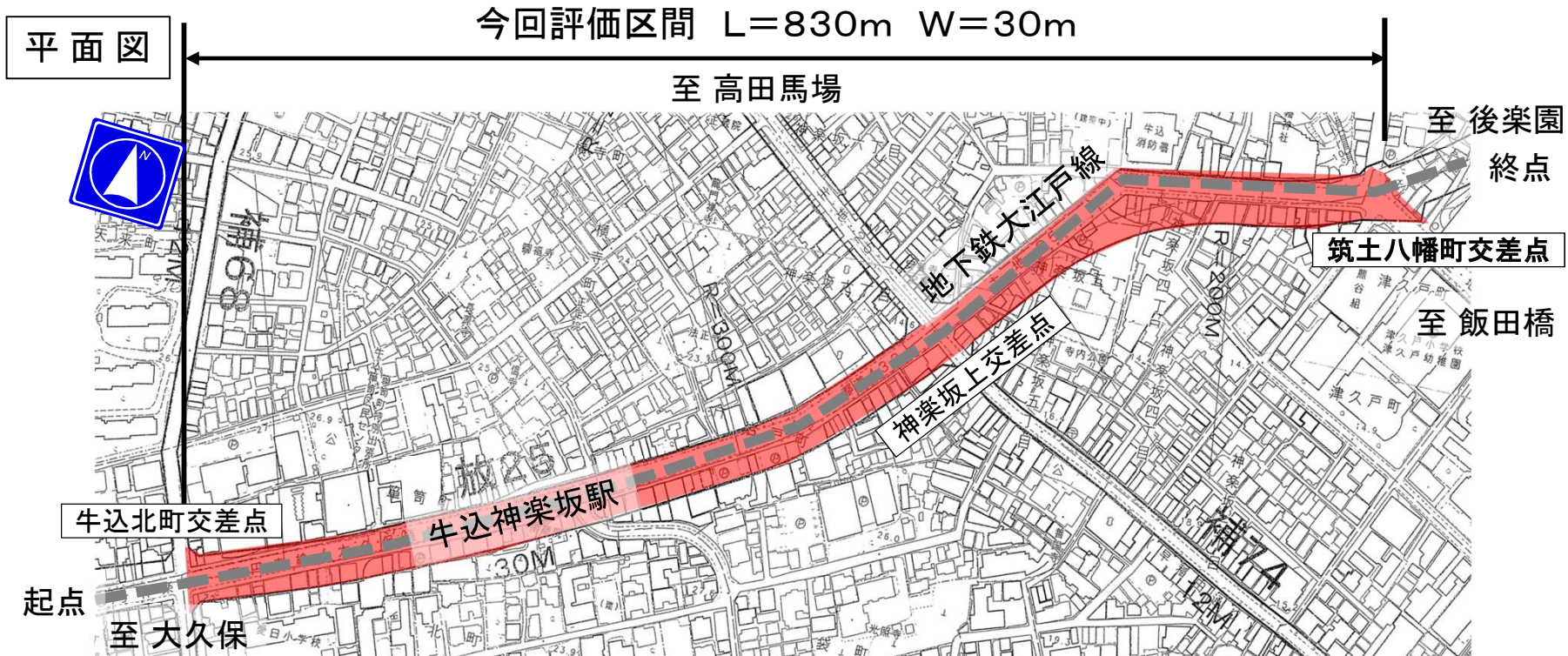


終点から目白通りを望む

事業の効果

- 区部放射方向の道路ネットワークの強化及び交通の円滑化
- 歩行者や自転車の通行の安全性向上
- 緊急輸送道路としての機能強化及び地域の安全性・防災性向上
- 電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観の創出

1. 事業概要(3)



1. 事業概要(4)

現況



① 起点



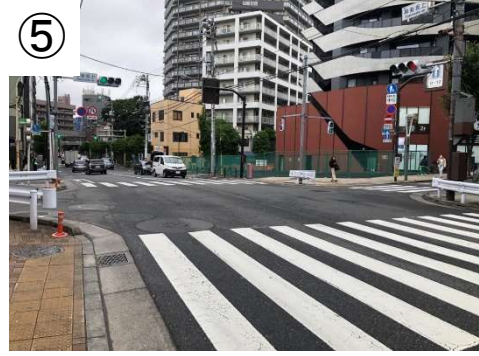
② 中間部(牛込神楽坂駅)



③ 中間部(取付道路部)



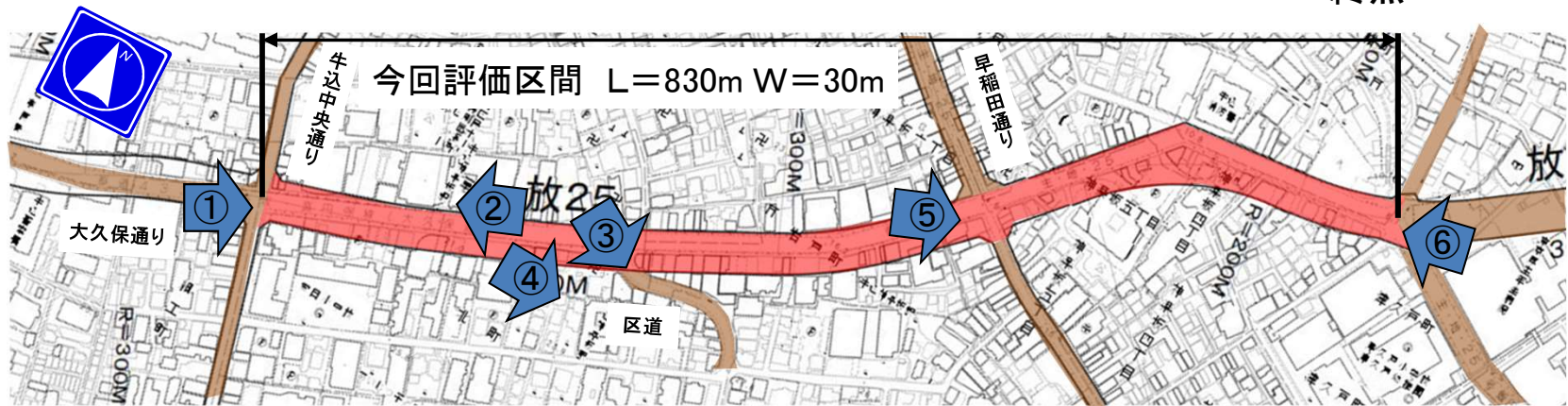
④ 用地取得地(高低差)



⑤ 中間部(神楽坂上交差点)



⑥ 終点



2. 社会経済情勢の変化等



社会経済情勢の変化

- 本路線周辺の現況交通量 (H27年度) は、H22年度と比較して横ばい。

関連する他事業等の進捗状況の変化

東京都 施行	地区	着手 年度	用地	工事
①	放射第25号線 (若松町)	H22	79%	未実施
②	環状第3号線 (弁天町)	H20	98%	実施中
③	環状第3号線 (薬王寺)	H14	99%	実施中
④	環状第4号線 (夏目坂)	H29	11%	未実施

(R3年度末時点)

3. 事業の投資効果(1)

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益	365.4億円
走行時間短縮便益	335.0億円
走行経費減少便益	28.0億円
交通事故減少便益	2.4億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	125.1億円
工事費	9.2億円
用地費	109.7億円
維持管理費	6.2億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$\underline{B/C = 2.9(前回 -)}$$

3. 事業の投資効果(2)

定性的効果

	事項	該当
交通	交通渋滞の解消	○
	物資流動円滑化への寄与	○
	バスの定時性	○
	迂回交通の減少	○
景観	都市景観の向上	○
防災	緊急車両の走行	◎
	延焼遮断	○
	災害時の避難路の確保	◎
	消防活動困難地域の解消	

	事項	該当
くらし	土地利用の転換・高度化	○
	交通不便地域の解消	
	商業・産業の活性化	○
	公共施設へのアクセス向上	◎
安全	交通事故の減少	○
	バリアフリー化	○
	自転車や歩行者のための空間確保	○
	その他	

※該当欄の◎は次頁以降に概要あり

3. 事業の投資効果(3)

<防災>・緊急車両の走行・災害時の避難路の確保

- 本路線は、災害時における緊急輸送を円滑に行うための緊急輸送道路(二次路線)に指定されている重要な路線である。

放射第25号線 L=約4.7km



出典: 東京都の緊急輸送道路(令和2年4月)(東京都HP)

一次路線: 応急対策の中核を担う都本庁舎、立川地域防災センター、重要港湾、空港島を連絡する路線
 二次路線: 一時路線と区市町村役場、主要な防災拠点(警察、消防、医療等の初動対応機関)を連絡する路線
 三次路線: その他の防災拠点(広域輸送拠点、備蓄倉庫等)を連絡する路線

3. 事業の投資効果(4)

<くらし>・公共施設へのアクセス向上

■ 現道拡幅により、快適な歩行者・自転車走行空間が創出され、安全な通行が可能となり、愛日小学校、津久戸小学校、新宿区立牛込区民センター、牛込神楽坂駅などへの**アクセスが向上し、更に利便性が増す**ものと見込まれる。



4. 事業の進捗状況と見込み等

事業費の執行状況

(R3年度末時点 カッコ内は前回評価時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費(百万円)	12,000(—)	1,100(—)	13,100(—)
執行済額(百万円)	8,092(—)	48(—)	8,140(—)
執行率(%)	67.4(—)	4.4(—)	62.1(—)

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
10,200m ²	3,156m ² (—)	30.9%(—)

4. 事業の進捗状況と見込み等

一定期間を要した背景等

- 権利者多数の区分所有マンションが多い上、借家等も複数存在しており、権利者が多いことから、用地折衝に時間を要している。
- 近隣での移転を希望する方もおり、移転先選定に時間を要している。



起点付近(牛込北町交差点)



中間部(神楽坂上交差点)

残事業の取り組み及び進捗の見通し等

- 未取得用地の早期取得を目指し、折衝を進めている。
- 用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。
(排水管工事、企業者工事、電線共同溝工事、街路築造工事等)

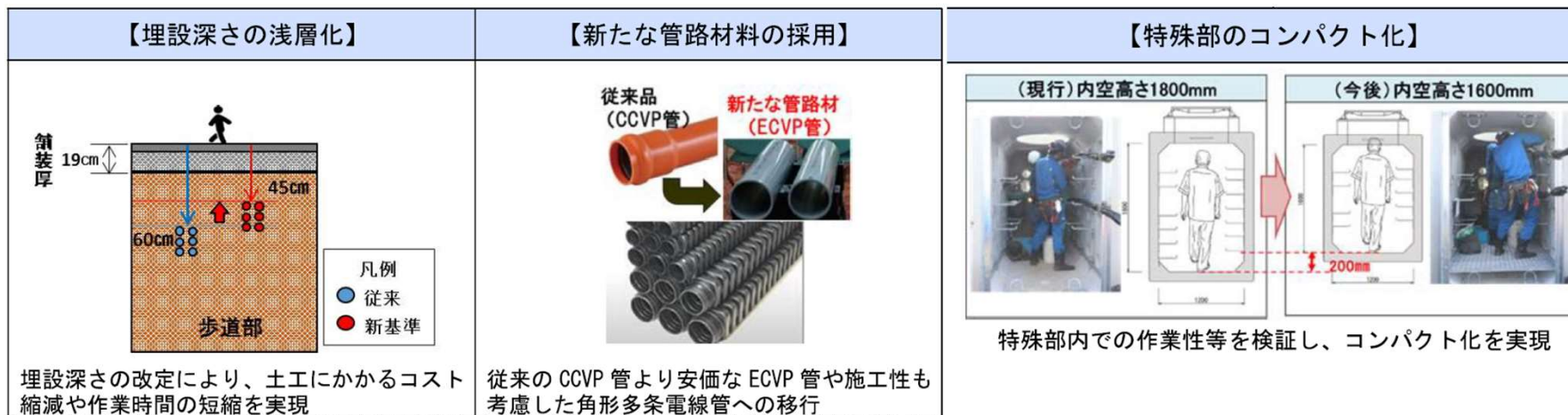
5. コスト縮減等

コスト縮減や新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性は極めて少ない。

その他のコスト縮減の取組

- 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。
- 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画（R3.6改定）を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。



6. 対応方針（原案）

（事業の必要性等に関する視点）

- 放射方向の道路ネットワークが強化され、交通の円滑化が図られるとともに、歩行者や自転者の通行の安全性が向上する。
- 緊急輸送道路としての機能を強化するとともに、地域の安全性・防災性が向上する。
- 電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出する。

（事業の進捗の見込みの視点）

- 用地は約30%取得済みであり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進める。
- 用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。
（排水管工事、企業者工事、電線共同溝工事、街路築造工事等）



対応方針（原案） 継続

- 放射第25号線は、周辺地域の交通渋滞緩和、延焼遮断帯や避難路としての機能、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観の創出の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。